



環境公共 通信

“地域づくりの新しいかたち” 環境公共



第22号 平成26年 8月
発行／環境公共推進会議事務局
〒030-8570 青森市長島1-1-1
青森県農林水産部農村整備課内
TEL 017(734)9545 FAX 017(734)8153

■最近の話題

稲生川小水力発電所が運転開始しました

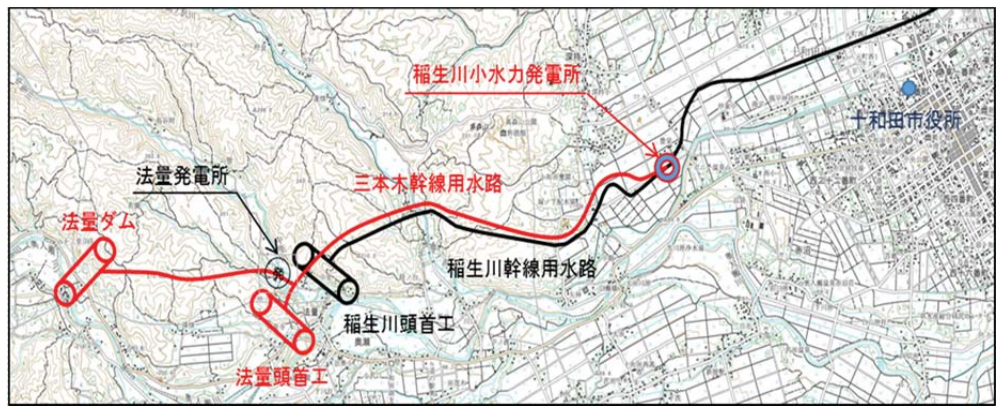
本県農林水産部では、「攻めの農林水産業」の推進に向けて【山・川・海をつなぐ「水循環システム」の再生・保全】に取り組んでおり、その一環として県が整備を進めてきた「稲生川小水力発電所」が完成し、7月31日に売電を開始しました。



【運開式：出席者による万歳三唱】

1 施設の概要

本施設は、三本木幹線用水路の約7mの落差を活用し、水車2基で発電する仕組みで、最大出力は182キロワット。稼働日数は、かんがいを行う5月1日から9月15日までの118日間。再生可能エネルギーの固定価格買取制度に基づき20年間売電します。年間発電量は495メガワット



【位置図】

ア-で、一般家庭113戸分の年間消費電力に相当します。また、原油量に換算するとドラム缶686本分となり、二酸化炭素の削減効果はスギ1万2千本（約170トン）の植樹に相当します。

2 運開式

運用開始の式典（運開式）では、安全祈願と安定的な施設の稼働などを祈念するための神事が執り行なわれ、稲生川土地改良区の丸井理事長が「先人から受け継がれた、この貴重な財産を更に有効活用しながら、農家、組合員の負担軽減及び環境との調和を図りたい」とあいさつし、スイッチを入れて施設が稼働しました。

小水力発電施設で生み出される電力による売電収入は、稲生川土地改良区の管理する土地改良施設の維持管理費や補修費等に充当され、農家負担の軽減や老朽化が進む施設を長持ちさせるなどの効果が期待されます。



【下流側より】



【上流側より】

■「環境公共」事例紹介

小川原、日の本中央地区（三沢市、東北町） ～資源循環と飼料自給率の向上～

1 地区の概要

今回紹介する小川原地区（三沢市、東北町）と日の本中央地区（東北町）は、県内有数の酪農地帯で、平成24年度から、畜産担い手育成総合整備事業を活用し、牧草地の造成のほか、最新搾乳設備を備えた牛舎や、良質なたい肥を製造するたい肥舎など酪農関連施設の整備に取り組み、自給飼料の安定確保や担い手への円滑な経営移行を図ることで、畜産の主産地形成を目指している地区です。



【地区位置図】

2 活動内容



【畜産における資源循環】

畜産については、大規模な草地開発や家畜ふん尿が発生するなど、地域の環境に負荷を与えるイメージがありますが、このようなことを踏まえて、両地区では、搾乳牛へ与える自給飼料の生産に必要な牧草地の造成には、地域内の耕作放棄地や未利用地を活用するほか、牛舎と併せて、たい肥舎を一体的に整備し、生産されたたい肥を牧草地に還元することで、資源循環型の畜産を可能にする仕組みづくりに取り組んでいます。

また、この資源循環をより効率的に、低コストで進めるため、共同作業によるたい肥の散布や牧草生産に取り組むことで、酪農経営の体質強化と持続的な発展を目指しています。

このほか、搾乳牛舎を新設する際は、搾乳時に生じる洗浄水等の浄化設備を設けるなど、環境への新たな負荷低減対策にも取り組んでいます。

3 今後の取組

小川原地区及び日の本中央地区は、平成29年度まで事業が続きますが、引き続き、資源循環に配慮した施設整備を推進していくとともに、今後、県内での生産拡大が見込まれる飼料用米など新たな地域飼料資源も活用しながら、持続可能で環境保全に貢献できる生産基盤の確立に取り組んでいきます。



【自給飼料を生産する牧草地】